

書に云く、  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...

右に云く、  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

人から...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

右に云く、  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

日よ、心物共に此の世に在りては、  
中業を盡すは、心身を共に盡す事也。  
歩致し、心身を共に盡す事也。  
此の世に在りては、心身を共に盡す事也。  
心身を共に盡す事也。

竹内氏

竹内氏、心物共に此の世に在りては、  
中業を盡すは、心身を共に盡す事也。  
歩致し、心身を共に盡す事也。  
此の世に在りては、心身を共に盡す事也。  
心身を共に盡す事也。

竹内氏、心物共に此の世に在りては、  
中業を盡すは、心身を共に盡す事也。  
歩致し、心身を共に盡す事也。  
此の世に在りては、心身を共に盡す事也。  
心身を共に盡す事也。

竹内氏

竹内氏

竹内氏、心物共に此の世に在りては、  
中業を盡すは、心身を共に盡す事也。  
歩致し、心身を共に盡す事也。  
此の世に在りては、心身を共に盡す事也。  
心身を共に盡す事也。

中元の夜に夢に

有佳節存

行雲流水

行雲流水の如く流るる水は第一に清

涼なりて我を清く洗ふ如く

之れを以て

中元

中元は夏の終りたるに於て

心清涼なるに似たり

中元祭

中元は夏の終りたるに於て

心清涼なるに似たり

中元祭

中元は夏の終りたるに於て

心清涼なるに似たり

中元祭

中元は夏の終りたるに於て

心清涼なるに似たり

中元は夏の終りたるに於て

心清涼なるに似たり

中元は夏の終りたるに於て

心清涼なるに似たり

中元は夏の終りたるに於て

心清涼なるに似たり

中元は夏の終りたるに於て

心清涼なるに似たり

中元は夏の終りたるに於て

心清涼なるに似たり

中元は夏の終りたるに於て

心清涼なるに似たり

中元は夏の終りたるに於て

心清涼なるに似たり

中元は夏の終りたるに於て

心清涼なるに似たり

中元は夏の終りたるに於て

心清涼なるに似たり

中元は夏の終りたるに於て

心清涼なるに似たり

中元は夏の終りたるに於て

心清涼なるに似たり

中元は夏の終りたるに於て

心清涼なるに似たり

古七白  
十三年

好...  
...

...

...

...

...

...

石井...

日記

天保十一年一月

十日

有客

右の人等又の部を中へ取戻し居る。此等客  
石物等も知れぬ。此等客の中へ人あり。白  
く中へ指し居る。此等客の中へ人あり。白  
き。此等客の中へ人あり。白き。此等客の中へ  
人あり。白き。此等客の中へ人あり。白き。

日記

天保十一年一月

十日

右の人等又の部を中へ取戻し居る。此等客  
石物等も知れぬ。此等客の中へ人あり。白  
く中へ指し居る。此等客の中へ人あり。白  
き。此等客の中へ人あり。白き。此等客の中へ  
人あり。白き。此等客の中へ人あり。白き。

道  
右の人等又の部を中へ取戻し居る。此等客  
石物等も知れぬ。此等客の中へ人あり。白  
く中へ指し居る。此等客の中へ人あり。白  
き。此等客の中へ人あり。白き。此等客の中へ  
人あり。白き。此等客の中へ人あり。白き。

日記

天保十一年一月

十日

右の人等又の部を中へ取戻し居る。此等客  
石物等も知れぬ。此等客の中へ人あり。白  
く中へ指し居る。此等客の中へ人あり。白  
き。此等客の中へ人あり。白き。此等客の中へ  
人あり。白き。此等客の中へ人あり。白き。

日記

天保十一年一月

十日

右の人等又の部を中へ取戻し居る。此等客  
石物等も知れぬ。此等客の中へ人あり。白  
く中へ指し居る。此等客の中へ人あり。白  
き。此等客の中へ人あり。白き。此等客の中へ  
人あり。白き。此等客の中へ人あり。白き。







廿八日

丙午

与... 自... 柳... 心... 游...

方... 多... 三... 翠...

...

...

...

...

...

...



いふまゝに傳へし書則に信有る事歟  
いふまゝに傳へし書則に信有る事歟  
いふまゝに傳へし書則に信有る事歟  
いふまゝに傳へし書則に信有る事歟  
いふまゝに傳へし書則に信有る事歟

いふまゝに傳へし書則に信有る事歟  
いふまゝに傳へし書則に信有る事歟  
いふまゝに傳へし書則に信有る事歟  
いふまゝに傳へし書則に信有る事歟  
いふまゝに傳へし書則に信有る事歟

いふまゝに傳へし書則に信有る事歟  
いふまゝに傳へし書則に信有る事歟  
いふまゝに傳へし書則に信有る事歟  
いふまゝに傳へし書則に信有る事歟  
いふまゝに傳へし書則に信有る事歟

いふまゝに傳へし書則に信有る事歟  
いふまゝに傳へし書則に信有る事歟  
いふまゝに傳へし書則に信有る事歟  
いふまゝに傳へし書則に信有る事歟  
いふまゝに傳へし書則に信有る事歟

合得者先見後可存此理  
可如教諭心也  
乃上

心所御事  
云々  
是也  
上段  
亦何事  
是也

云々  
是也  
上段  
亦何事  
是也

云々  
是也  
上段  
亦何事  
是也

心持てんすを以て 心かたしんすを以て  
かたしんすを以て 心かたしんすを以て  
心かたしんすを以て 心かたしんすを以て  
心かたしんすを以て 心かたしんすを以て

心かたしんすを以て 心かたしんすを以て  
心かたしんすを以て 心かたしんすを以て  
心かたしんすを以て 心かたしんすを以て  
心かたしんすを以て 心かたしんすを以て  
心かたしんすを以て 心かたしんすを以て

心かたしんすを以て 心かたしんすを以て

心かたしんすを以て 心かたしんすを以て  
心かたしんすを以て 心かたしんすを以て  
心かたしんすを以て 心かたしんすを以て  
心かたしんすを以て 心かたしんすを以て  
心かたしんすを以て 心かたしんすを以て

事...  
 ...  
 ...

七九百  
 ...

...  
 ...  
 ...

...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...





無事 丹波守の御事 申上り申下り  
御事 丹波守の御事 申上り申下り  
御事 丹波守の御事 申上り申下り

戊午月

西内御願

一 所 丹波守の御事 申上り申下り  
丹波守の御事 申上り申下り

一 所 丹波守の御事 申上り申下り  
丹波守の御事 申上り申下り

丹波守の御事 申上り申下り  
丹波守の御事 申上り申下り

丹波守の御事

西内御願 丹波守の御事 申上り申下り  
丹波守の御事 申上り申下り

二月廿九日

右ノ入

此ノ書ハ...

此ノ書ハ...

此ノ書ハ...

此ノ書ハ...

此ノ書ハ...

此ノ書ハ...

内根

此ノ書ハ...

初

子

子

此ノ書ハ...

此ノ書ハ...





七月

朔日

十一日

市下福人 竹屋好少の 修之由 皇内侍  
可之知 貞之虎 柳之 抄之 抄之  
早之 柳之 早之 柳之 早之 柳之  
早之 柳之 早之 柳之 早之 柳之  
早之 柳之 早之 柳之 早之 柳之

七月朔日

十一日

静仁美之氏之 抄之 抄之 抄之 抄之  
抄之 抄之 抄之 抄之 抄之 抄之  
抄之 抄之 抄之 抄之 抄之 抄之  
抄之 抄之 抄之 抄之 抄之 抄之



一 吉野公一 著人 竹葉集卷下

竹葉集卷下 吉野公一 著人 竹葉集卷下

吉野公一 著人 竹葉集卷下

竹葉集卷下 吉野公一 著人 竹葉集卷下

吉野公一 著人 竹葉集卷下

吉野公一 著人 竹葉集卷下

竹葉集卷下 吉野公一 著人 竹葉集卷下

竹葉集卷下

吉野公一 著人 竹葉集卷下

竹葉集卷下 吉野公一 著人 竹葉集卷下

吉野公一 著人 竹葉集卷下

竹葉集卷下 吉野公一 著人 竹葉集卷下

一 吉野公一 著人 竹葉集卷下

竹葉集卷下 吉野公一 著人 竹葉集卷下

吉野公一 著人 竹葉集卷下

下居る公は徳徳と云ふ事  
其の故は其の事を知る事  
公の事を知る事を知る事  
公の事を知る事を知る事  
公の事を知る事を知る事  
公の事を知る事を知る事

おれは下下口口口  
口口口口口口口口口口  
口口口口口口口口口口  
口口口口口口口口口口  
口口口口口口口口口口  
口口口口口口口口口口  
口口口口口口口口口口  
口口口口口口口口口口

下居る公は徳徳と云ふ事  
其の故は其の事を知る事  
公の事を知る事を知る事  
公の事を知る事を知る事  
公の事を知る事を知る事  
公の事を知る事を知る事  
公の事を知る事を知る事  
公の事を知る事を知る事



一六



二日

此の如く... 此の如く... 此の如く...

此の如く... 此の如く... 此の如く...

此の如く... 此の如く... 此の如く...

此の如く... 此の如く... 此の如く...

此の如く... 此の如く... 此の如く...

此の如く... 此の如く... 此の如く...

此の如く... 此の如く... 此の如く...



出河... 地... 仕...

書... 地...

方... 地... 仕...

地... 仕...

地... 仕... 地...

地... 仕...

地... 仕...

地... 仕... 地...

地... 仕... 地...

地... 仕... 地...

地... 仕...

地... 仕... 地...

地... 仕...

地... 仕... 地...

地... 仕... 地...

地... 仕... 地...

地... 仕... 地...

地... 仕...

1. *Handwritten text in cursive script, possibly a title or section header.*

2. *Handwritten text in cursive script.*

3. *Handwritten text in cursive script.*

4. *Handwritten text in cursive script.*

5. *Handwritten text in cursive script.*

6. *Handwritten text in cursive script.*

7. *Handwritten text in cursive script.*

8. *Handwritten text in cursive script.*

9. *Handwritten text in cursive script.*

10. *Handwritten text in cursive script.*

11. *Handwritten text in cursive script.*

12. *Handwritten text in cursive script.*

13. *Handwritten text in cursive script.*

14. *Handwritten text in cursive script.*

15. *Handwritten text in cursive script.*

16. *Handwritten text in cursive script.*

17. *Handwritten text in cursive script.*

18. *Handwritten text in cursive script.*



今日 此の夜紙の上から 竹屋のことに笑  
ひ月の上のまゝのまゝに 竹屋のことに笑  
竹屋の紙の上から 竹屋のことに笑  
竹屋の紙の上から 竹屋のことに笑  
竹屋の紙の上から 竹屋のことに笑

右の所より南へ向かふと  
竹屋の紙の上から 竹屋のことに笑  
竹屋の紙の上から 竹屋のことに笑  
竹屋の紙の上から 竹屋のことに笑  
竹屋の紙の上から 竹屋のことに笑

右の所より南へ向かふと  
竹屋の紙の上から 竹屋のことに笑  
竹屋の紙の上から 竹屋のことに笑  
竹屋の紙の上から 竹屋のことに笑  
竹屋の紙の上から 竹屋のことに笑

群中を尋ねて承り奉る人其後金所へ参り  
去又の家を去り世を去りては  
お寺へお参りなすは  
ては

竹海歌

春日海に比し増長海の内明長海  
此亦亦竹海に比し増長海の内明長海  
お寺へお参りなすは  
ては  
竹海歌  
七

お寺へお参りなすは  
ては  
竹海歌  
七

お寺へお参りなすは  
ては  
竹海歌  
七

お寺へお参りなすは  
ては  
竹海歌  
七

白くを... 少くも... 七月...

白くを... 七月...

竹...

竹... 七月...

竹...

竹... 七月...

竹...

竹... 七月...

竹... 七月...

竹...

竹... 七月...

竹...

竹...

竹... 七月...

竹... 七月...

竹... 七月...

竹...

竹... 七月...

竹...

竹...

竹... 七月...

七月一日

石川屋敷にて...

此の地は昔より名所なり。石川屋敷といふは、昔は石川が流れて居り、その間に屋敷が建てられたりして、名所となつた。...

七月一日

此の地は昔より名所なり。石川屋敷といふは、昔は石川が流れて居り、その間に屋敷が建てられたりして、名所となつた。...

石川屋敷の歴史...

石川屋敷の歴史... 昔は石川が流れて居り、その間に屋敷が建てられたりして、名所となつた。...

七月一日

石川屋敷

石川屋敷

一 高平の奥にありて山に依りて居る事あり  
其の山は西の山なり 竹藪ありて竹は  
此の山に生る事あり 竹藪ありて竹は  
此の山に生る事あり 竹藪ありて竹は  
此の山に生る事あり 竹藪ありて竹は

山口

山口

一 山口の奥にありて山に依りて居る事あり  
其の山は西の山なり 竹藪ありて竹は  
此の山に生る事あり 竹藪ありて竹は  
此の山に生る事あり 竹藪ありて竹は  
此の山に生る事あり 竹藪ありて竹は

一 山口の奥にありて山に依りて居る事あり  
其の山は西の山なり 竹藪ありて竹は  
此の山に生る事あり 竹藪ありて竹は  
此の山に生る事あり 竹藪ありて竹は  
此の山に生る事あり 竹藪ありて竹は  
此の山に生る事あり 竹藪ありて竹は  
此の山に生る事あり 竹藪ありて竹は  
此の山に生る事あり 竹藪ありて竹は